

日本郵政からの事業譲渡を受けて2017年4月にスタートした「晴生会さっぽろ南病院」が、築25年を超えた建物の照明リニューアル工事を実施。各種LED器具が多数採用され、とりわけ入院病棟の廊下には、病院内通路向けのベース照明としてリニューアル導入に適した2面配光間接光器具が多用されました。

北海道の郵政職域病院として開設され半世紀以上にわたり地域に貢献してきた札幌通信病院を、全国に120以上の関連事業所を展開する大手医療法人葵会グループの医療法人晴生会が、2017年4月より引き継いだ「晴生会さっぽろ南病院」。7つの診療科目、病床数144床の規模を持ち、晴生会としては札幌市で2つ目となる病院です。現在の建物は1990年に建築されたもので、事業継承後に順次内部の改修が行われ、より快適な病院施設へとリニューアルされています。



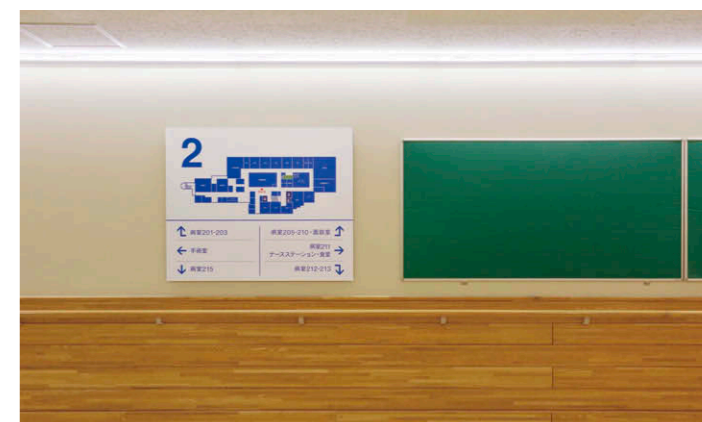
【物件概要】
所在地：札幌市南区川沿14条1丁目5番1号
構造・規模：地下1階地上5階建
施主：医療法人晴生会
施工：電気/日比谷総合設備㈱
リニューアル：2017年12月



③ 3階廊下の照明 廊下の天井壁面の片側に2面配光間接光器具を配置し、ストレッチャーで患者を運ぶ際、目に負担をかからないよう配慮



① エレベーター前の照明 壁と天井の両面に継ぎ目のない間接光のラインを創り出す2面配光間接光器具



掲示板をやわらかな光で照明 2面配光間接光器具により天井面からと壁面からのやわらかな光で掲示板を明るく照射

壁と天井の両面への間接光により空間を柔らかな光で満たす2面配光間接光器具を連結設置

診察・診療業務を止めることなく行われた今回の照明リニューアルは、エリアごとに順次行われ、入院患者の病室やナースステーションのある2～4階の病棟エリアの改装が主となりました。器具はそれぞれのスペースに合わせて適切なLED器具が選ばれ、中でも廊下には全階で色温度4000KのLEDベースライト2面配光間接光器具が導入されました。コー

ンブ照明およびコーニス照明に近い演出効果が得られる間接照明器具で、直付けタイプなので大がかりな建築工事を必要とせず施工コストを抑制。温もりのある白色のあかりが天井面と壁面を同時に柔らかく照らしており、空間自体が広く感じられ、また明るさ感も向上。連結設置により繋ぎ目のないライン状の間接光が空間を美しく演出しています。

② 2階病棟廊下の照明 壁面と天井面を明るく照らす4000Kの間接光によりくつろぎ感のある空間を演出

① LED2面配光間接光器具 40タイプ



主な掲載器具一覧

設置場所	器具名 (品名)	形名	台数	備考
2～4階病棟	① LED2面配光間接光器具40タイプ	LEDT-40260W-LD9	122	消費電力：32.3 W
2階病室	TENQOO スクエア パネルタイプ 埋込形 □600 深枠(白)パネル	LEKR760901UW-LD9	15	消費電力：52.0 W
	LEDベッド灯	LEDA-21001ML-LS1	48	消費電力：1.8W